

布団カバー分割 洗濯楽々



商品化された「時短カバー」と考案者の今野さん。中央から枕元側と足元側に分かれたセパレート式—長原敏夫撮影

船橋の今野さん

介護からヒント 商品化

大きな布団カバーの取り替えや洗濯の煩わしさを減らそうと、船橋市の書道教室講師、今野和代さん(56)が考案したセパレート式布団カバーが、「時短カバー」として商品化された。義母の介護から生まれたアイデアといい、今野さんは介護や子育てに携わる人々の負担軽減を願っている。

今野さんが考案したのは、袋状の布団カバーを中央から枕元側、足元側に切り分け、それぞれの側に布団を差し込んでホックでつないで取り付けるというもの。これまで5分程度かかっていた脱着時間は2分程度に短縮され、汚れが付きやすい枕元だけを取り外して洗濯することも可能だ。広島県三原市の寝具会社「クロスクリエーション」が「セパレート時短カバー」として、昨年からネット販売している。

東京都内で一人暮らしをしていた今野さんの義母は10年ほど前から布団内で過ごす時間が増えた。今野さんは仕事の合間をみて義母宅を訪れていたが、限られた時間の中で布団カバーの洗濯が、悩みの一つだった。布団内で食事するため枕元付近がよく汚れたが、大きな布団カバーは一度に多くを洗うことができず、干すスペースも限られていた。「枕元側だけ洗えればいいのに」と思っていた。

8年前に義母が死去し、その思いは一時薄れていたが、2年ほど前、「布団カバー」の会員でもあり、今回の布団カバーについても昨年4月に特許を出願。2か月後にはクロスクリエーションに商品化を持ちかけた。商品化について、今野さんは「子育て、仕事、介護は、多くの女性が経験すること。少しでも作業が楽になり、気持ちよく生活できる助けになればうれしい。女性目線でアイデアを出していきたい」と話している。

その思いは一時薄れていたが、2年ほど前、「布団カバー」の会員でもあり、今回の布団カバーについても昨年4月に特許を出願。2か月後にはクロスクリエーションに商品化を持ちかけた。商品化について、今野さんは「子育て、仕事、介護は、多くの女性が経験すること。少しでも作業が楽になり、気持ちよく生活できる助けになればうれしい。女性目線でアイデアを出していきたい」と話している。